

## 郵政民営化委員会（第142回）議事要旨

日 時：平成27年11月16日（月）9：30～10：30

場 所：永田町合同庁舎3階 郵政民営化委員会室

出席者：増田委員長、米澤委員長代理、老川委員、三村委員  
野村證券株式会社 榊原常務、北見主任研究員

### 1. 概要

- (1) 野村證券株式会社から、海外の郵政事業体の動向について説明があり、質疑応答を行った。
- (2) 今後の郵政民営化の推進の在り方について、郵政三社の株式上場が実施されたことを踏まえ、今後の調査審議の進め方について整理を行った。

### 2. 委員会での説明・意見等

- (1) 海外の郵政事業体の動向について【資料142-1】

#### ① 説明の概要

- ・ 海外で郵便事業を行っている企業の中で、株式市場に上場している9社（欧州7社、アジア2社）※について、財務指標、株価評価、事業戦略を比較して説明が行われた。

※ 欧州7社：ドイツポスト（独）、ポステイタリアーネ（伊）、ロイヤルメール（英）、ビーポスト（白）、オーストリアポスト（奥）、シーティーティー（葡）、ポストエヌエル（蘭）

アジア2社：シンガポールポスト（星）、ポスマレーシア（馬）

#### ② 委員からの意見等

- ・ 海外では、ユニバーサルサービスの維持と収益の確保の関係に対して、どう対応しているのか。  
(⇒ 各国とも、合理化、商品戦略、海外への進出、料金値上げ等、様々な方法により対応している。)
- ・ シンガポールポストの今後の事業戦略についてどう考えるか。  
(⇒ シンガポールは狭い国土で人口密度が高く、郵便事業が非常に効率的で高い収益性を有しているが、将来的な郵便事業の縮小を見越し、郵便事業で得た収益を活かして、小包分野やロジスティクス分野への出資等によるアジア展開を目指している。)
- ・ ドイツの金融事業（ポストバンク）が上手くいかなかった理由は日本と比較して何か。  
(⇒ ポストバンクは、ゆうちょ銀行と比べると、圧倒的に規模が小さく、存在感がなかったということが背景にあるのではないか。)
- ・ ドイツポストの成功は、M&Aを中心とする戦略を推進したことによるものか。  
(⇒ 基本的にM&Aを中心にした成長という側面が強い。郵便事業自体を効率化した

後、欧州のメール事業のM&Aから始まって、物流事業の世界的な展開に至っている。）

(2) 今後の郵政民営化の推進の在り方について【資料142-2】

- ・ 今後の調査審議については、11月4日に日本郵政グループ三社の株式上場が実施されたことも踏まえ、これまでの調査事項を補完するものとして、更に、中期経営計画の実施状況のフォローアップ等情報収集を行うこととし、その進め方については、同グループ三社が上場したばかりであり、株式市場に無用な混乱を与えないよう、当面、案件によっては、当委員会の調査審議内容を非公表とすることもあり得ることとして取り運ぶこととした。

以上

(注) 議事要旨は事後修正の可能性があることに御留意ください。また、詳細については追って公表される議事録を御覧ください。